

鶴見区在宅医療連携拠点事業

つるみ在宅ケアネットワーク 第14回公開勉強会報告書

日時 平成30年11月17日(土) 13:30~16:30

場所 鶴見公会堂

13:30 開会の辞

鶴見区医師会 理事 佐藤 剛



鶴見区役所 福祉保健センター長

花内 洋



13:40 1部

基調講演

「まちがえちゃったけど、まあいいか」と言える社会に

講師：「注文をまちがえる料理店」発起人 小国 士朗 氏

・注文をまちがえる料理店のお話

2017年6月プレオープン

・9月に再オープン(クラウドファンディングにて実施) 様子をムービー鑑賞…想定外

の大反響(海外メディア注目)

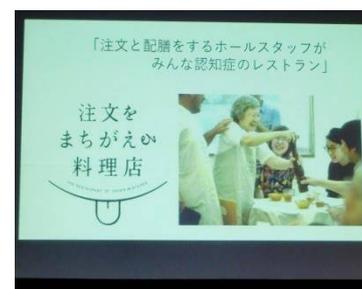
・企画が生まれた背景について

・注文をまちがえる料理店の作り方①②③④

・注文をまちがえる料理店の難しいところ

・注文をまちがえる料理店で起きたこと

・今後の展望

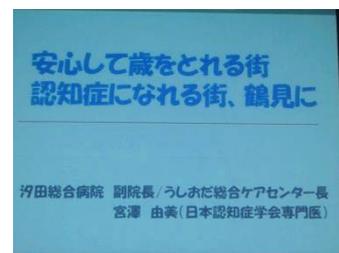


15:00 2部 シンポジウム 「認知症の方と家族を地域でどう支えるか」 Part2

座長 挨拶

汐田総合病院 副院長 うしおだ総合センター長 宮澤 由美 先生

- ・認知症カフェ・認知症取組み東部病院・地域包括センター・さわやか相談室 紹介
- ・“認知症の人にやさしい街” = “認知症の人にもやさしい街” = “様々な人にやさしい街”



鶴見区役所 高齢・障害支援課 課長 坪山 清美 氏

- ・認知症に関する取組みについて



「下町茶房」 発起人 荻島 克子 氏

- ・「下町茶房」活動について



15:35 ディスカッション

シンポジウム終了後 全体のご感想は？

小国氏：医師会からの依頼が初めてで驚いている。

鶴見は連携（医療・行政・民間）がとれている事が素敵だなと

宮澤先生：医師は、認知症をどう対処するか、どう予防するか病気との関わり方からの観点で考えてしまう。今回の取組みは違う角度からの見方ができ新鮮でした。

坪山氏：皆さんの声がなかなか届かない・・・と思いますが、このような機会をいただきぜひ気軽にお声を聞かせていただきたいです。

荻島氏：認知症の知識はTVや講演などで浸透してきていますが、支え方がわからない。怒るのではなくて、怒鳴るのではなくて、やさしく接する事。

「下町茶房」では今後支え方を勉強していきたいと思っています。



\*質問内容は議事録参照

事前質問から1問回答

会場より6題の質問

16:20 まとめ

汐田総合病院 副院長 うしおだ総合センター長 宮澤 由美 先生



16:25 閉会の辞

鶴見区医師会 拠点担当医師 佐藤 忠昭



出席者 195名

医師 5名 歯科医師 3名 薬剤師 5名 行政 8名

病院地域連携室 2名

地域包括支援センター 9名

サービス事業者・その他 54名

一般 109名